

職場接種 小樽戸惑い

会場、打ち手確保に課題

新型コロナウイルスワクチンを巡り、政府が職場や大学での接種を21日から可能と発表した。会場や打ち手の確保など中小企業の多い地方にも課題が多いとみられる。小樽市内でも準備が迅速に進むかは不透明で、職場接種を進める場合、調整を担うことになる小樽商工会議所は2日、情報収集に追われた。市内では高齢者対象の接種が継続中で、市も「まずは高齢者接種を7月末までに終えることを目指す」と冷静に受け止めている。

（鈴木孝典、日野夏実、久慈陽太郎）

同会議所は政府発表を受けて2日、日本商工会議所（日商）に電話で詳細を尋ねた。だが日商は「政府の協力要請はまだない」と回答。小樽商工会議所の山崎範夫専務理事は「要請があ

れば、できる範囲で協力したいのだが」と戸惑った。山崎専務は職場接種を実現する場合、会場確保や事業者向け案内文の送付などが必要とする一方、打ち手の確保やワクチンの温度管

理など衛生管理については、同会議所にノウハウが無く「会議所だけで対応するのは無理だ」と指摘。「市や医師会などとの連携が不可欠」と強調した。政府は高齢者向けの接種

の完了を待たず、自治体の判断で職場接種を開始してもらいたい考え。だが、市内の医療機関は現在、高齢者向けの接種と一般診療を同時に進めるだけで手いっぱいときれ「打ち手を出せるとしても高齢者が一段落してから」（市医師会の阿久津光之会長）の状況だ。市も「職場接種に人手を回すのは難しい」とする。

一方、大学での接種について小樽商科大は5月下旬の文部科学省のアンケートに「協力は難しい」と回答したという。ただ同大は市民接種向けの協力だと認識していたとし、学生や教員のみを対象とするなら可能とし「前向きに検討したい」（総務課）とした。

正社員とパート従業員を含め約1700人が働く北海道中央バス（小樽）には2日、国土交通省から職場接種に関する意向調査のメールが届き、同社は「対応は全て精査中」とした。

管内9人感染

小樽市と道は2日、新型コロナウイルスの感染者を後志管内で新たに9人確認したと発表した。全員が軽症。市発表分は4人で、市内の新規感染者は4日連続で5人を下回った。

市発表の4人は50代と60代が各1人と80代2人。いずれも感染経路は分かっていない。変異株PCR検査の陽性者（確定判定待ち）は23日ぶりにゼロ。市が5月22日に認定した介護事業所のクラスター（21人感染）は6月1日で終息した。

道発表の管内町村部の新規感染者は5人。乳幼児と20代、40代が各1人、年代非公表2人。うち3人の感染経路は不明という。管内の感染者は市発表の延べ1158人を含め1580人。（久慈陽太郎）

管内の感染者は市発表の延べ1158人を含め1580人。（久慈陽太郎）